

JAAGA 講演会(2018・5・10)

米国空軍州兵、国土防衛、航空自衛隊

-第5空軍副司令官の視点-

第5空軍副司令官 ジェフリー C. ボザード准将



まずは、この講話の機会を頂いたことを光栄に思います。私は結婚して22年、二人のティーンエイジャーの娘がいますが、長女は嘉手納基地勤務時に生まれました。また、北海道で実施されたコープノースでは、初めて航空自衛隊と出会い、共同訓練にワクワクしました。家族とともに東京、京都、北海道や与論島を旅行し、日本の色んな名所を観光しました。当時住んでいた借家の日本人大家さんが食べ物として持ってきた「生ダコ」に驚かされたこともありました。その後も大家さんとは友情を温めました。

現状の日本側との繋がりを客観的に見てみますと、豊富な通信手段により緊密化しており、同盟関係も強固で、お互いの軍事的能力も高度、戦略レベルも最高度に達していると思います。総隊司令部が隣にあることで5空軍と緊密に連携を取ることができ、情報の共有も円滑にできています。戦力も同レベルになってきているし、戦略的な北朝鮮の核ミサイルへの対処も日米で連携してやっています。こんなに緊密なのは、北朝鮮、ロシア、特に中国のお陰です。

州軍も昔は、装備は古く年齢層の高い兵員ばかりだったのが、冷戦後の連邦政府軍の財政改革により、今の主任務はF-16を使った戦闘への準備であり、C-40を使った世界各国へのVIP輸送支援であり、今までどおり災害派遣や人道支援任務も誇り高く実施しています。州軍で身につけた技術は、民間でも有用であり、4年に一度の大統領就任式における警備及びその他の州軍の後方面での支援を行った際、連邦政府軍と遜色なく任務を実施していました。私の経歴で連邦政府軍と州軍両方で実戦に行っていますが、全く差がないと思います。

州軍は全部で54の組織からなり、州軍の予算は連邦政府から出て、各州に分配された後は各州の裁量で予算編成します。そして、州軍の任務はいつでもその予算を使って戦闘に参加できるよう準備しておくことです。連邦政府軍と大きく違うところはその運用方法で、新兵はまず州軍に配属され基本的教育が終わった後、パートタイムでの勤務も可能な旨を伝えられます。過去にいた州軍では60%の者がパートタイム勤務にしており、40%の者

にしかフルの給料が払われていません。スキルの維持をするために月に一回、集合訓練をしています。この様な運用は財政の節約モデルですが、システムとして機能させるには各組織が戦術レベルで技量が一致していなければならないと思います。

あるクルーチーフについては、週末は州兵としてF-16やC-40のクルーチーフをして、他の日はユナイテッド航空のクルーチーフとして働きます。私の広報官2名のうち1名は、平日はフォックスニュースに勤めていて、もう1名は米國務省に勤めています。憲兵隊の者は、本職は警察官をしています。しかし、幕僚やBMD関係者については、このシステムは適用していません。

航空自衛隊が日本のアラート勤務をする様に、私どももアメリカ本土のアラート勤務をしており、私の配下のF-16と連邦政府軍のF-16が同時に待機しています。太平洋空軍のオショーネシー大將は、ノースコムの上級司令官となれば、私の上司になります。2年前に航空自衛隊はスクランブル回数が千回を超え、過去最高を記録しました。今回は、904回で下回りましたが、凄い数字です。私の部隊は2001年9月11日からアラートについて、これまでに6080日間で、合計6080回のスクランブルがあったので、1日に一回スクランブル発進している計算になります。また、任務はアラートだけではないので、54の組織が交代で戦闘に参加しています。

とても残念な事に過去連邦政府軍と州軍の関係が良くありませんでした。その改革として、まず空軍省と州軍が話し合い、どこの組織が任務のどの部分をやるのかの棲み分けを必要に駆られてやっており、それでも完璧ではないので、同じ基準の検閲や戦闘能力点検を行って技量を同レベルにしていますので、兵士の誰を取っても連邦政府軍か州軍かわからないくらい技量が均衡しています。そして、私自身も州軍の司令官から第5空軍の副司令官に任命されて光栄に感じています。こういった改革はもっと早くからやっておくべきであり、システムを構築する事で効率的に予算が使えると思います。

H-6爆撃機が宮古島上空を越えたり、TU-95が飛来してきたり、北朝鮮の弾道ミサイル関連など大きく日本の近代の歴史が変わってきました。米国防長官が国防戦略で示した通り、アジアでの競争が激しく、それに対応していかなければならないのが現実でしょう。私から個人的に皆様に約束したい事があります。連邦政府軍だけではなく州空軍ももちろん、日本を同盟国として、間違いなく必要な時に助けるということを約束します。ありがとうございました。

(平成30年5月10日、JAAGA 総会時講演、グランドヒル市ヶ谷)